

平湯ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県高山市
面積	26.46ha
設定年	平成2年4月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	平湯国有林に原生的なダケカンバの群生地がある。このダケカンバを保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「オ:自然攪乱」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、立枯れ木や倒木が散見され、トウヒの実生が確認されていることから、このまま遷移が進むとトウヒを中心とした針葉樹林に置き換わる可能性がある よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

宮ツメタ谷ヒノキ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県高山市
面積	8.98ha
設定年	平成2年4月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	宮国有林に存する天然生ヒノキが群生する原生林を保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「ア:野生鳥獣」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、ニホンジカによる被害情報があり、ニホンジカの食痕が林床で散見されたことから、ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念される。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

位山苺安アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県高山市
面積	4.59ha
設定年	平成2年4月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	宮国有林に存する優良アカマツを保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「ア:野生鳥獣、カ:その他(倒木等)」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、ニホンジカによる被害情報があり、ニホンジカの剥皮が散見されたことから、ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念される。 また、アカマツの倒木等も確認されている。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

軽岡スギ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県高山市
面積	10.68ha
設定年	平成4年10月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	軽岡国有林の一部に群生する伏条性の強い当該地固有の希少樹種であるムマイスギを保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「ア:野生鳥獣」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、ニホンジカの生息情報があり、ニホンジカの食痕が散見されたことから、ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念される。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

大白川ドロノキ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県大野郡白川村
面積	6.58ha
設定年	平成4年10月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	大白川国有林の一部に群生しているドロノキは、全国分布の最西端にあたりとされ、かつ、高木となっていることから、これを保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「ウ:外来種、力:その他(倒木等)」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、外来種の侵入情報があり、県道沿いの保護林であることから、外来種に対する留意が必要と考えられる。 また、わずかであるが大径木の倒木が確認されている。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

万波ブナ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県飛騨市
面積	295.84ha
設定年	平成2年4月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	日本海側の冷温帯を代表するブナの極相がまとまって分布していること、比較的低い標高にかかわらずイワイチョウ、コバイケイソウ、チングルマやキアラボク等の貴重な植生が分布していること及びモリアオガエル、クロサンショウウオ、オオルリヤマトンボ(湿原が発生源)等の動物が生息しているため森林を保護する。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを3箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「力:その他(倒木等)」 概ね良好に保護・管理されている。 ブナの立枯れ木や倒木等があるが、林床にブナの実生が確認されていることから、倒木更新が順調に進んでいると思われる。 よって、森林の更新状況を把握することから、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

天生希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県飛騨市
面積	7.15ha
設定年	平成5年4月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	典型的な高層湿原が所在する。岐阜県ではここしか見られないホロムイソウ、ヒメシャクナゲ、ヤチスゲが分布することから保護を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査、高山植生等調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。森林詳細調査(高山植生等調査)として調査プロット(5m×5m)を2箇所設定し、プロット内に出現した種について、階層ごとに種名、被度・郡度を記録すると共に、プロット内の主要な種の分布状況を模式図で記録する。
結果概要	確認できた影響「ウ:外来種、カ:その他(陸化)」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、外来種の侵入情報があり、湿原というインパクトを受けやすい環境があることから、外来種に対する留意が必要と考えられる。 また、湿地の陸化が懸念される。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。

御岳希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県高山市
面積	18.39ha
設定年	平成4年3月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	中部地方南西限に分布する貴重群落であるため保護する。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。
結果概要	確認できた影響「オ:自然攪乱」 概ね良好に保護・管理されている。 ただし、トウヒ大径木の立枯れ木がみられたことから、将来的にトウヒ林からシラビソ・オオシラビソ林へ遷移が進むと考えられる。 よって、オサバグサだけでなく、森林の更新状況についても引き続きモニタリングを継続することが適当である。

山中山希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県高山市庄川町河戸
面積	1.99ha
設定年	平成4年3月設定・平成30年4月変更
保護林の概要 (設定目的)	岐阜県に生育するミズバショウの内、最南限に分布する貴重な群落であるためその保護を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査、高山植生等調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。森林詳細調査(高山植生等調査)として調査プロット(5m×5m)を2箇所設定し、プロット内に出現した種について、階層ごとに種名、被度・郡度を記録すると共に、プロット内の主要な種の分布状況を模式図で記録する。
結果概要	確認できた影響「ア:野生鳥獣、カ:その他(陸化)」 概ね良好に保護・管理されている。 本年度は、湿地内にニホンジカが侵入し、ノリウツギに食痕が確認された。これは豪雨災害により電気柵が管理できなかった影響で単年度的な被害であることから、電気柵の維持管理が続けられる限り、大きな変化はないと考えられる。ただし、電気柵の管理労力がかかる。 また、湿地の陸化の進行が懸念される。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。